

日本女子大学教授

細川 幸一

消費者庁「倫理的消費」調査研究会の報告書では、エシカル消費について「消費者それぞれが、各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む

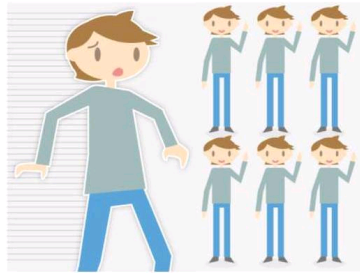
幅広い解釈



6

事業者を応援したりしながら、消費活動を行うことであるといえる。このため、倫理的消費と称することのできる消費行動は幅広く、すでに普及している多くの概念を包含している」と述べている。しかし、この用語に対する疑問の声もある。「持続可能な消費」でよいではないかという意見だ。この分野の第一人者である山本良一教授は、倫理的消費に関連する二つの用語とともに以下のように解説している。

倫理的消費……社会の健全



持続可能や社会的消費も含まれる

性向上を積極的に支援し、環境・人権などの社会的課題に配慮して消費すること（豊田尚吾）。

社会的消費……市場での消費を通じた社会的課題の解決行動（大平修平、園部靖史、スタ二口スカー・スミレ）。

持続可能な消費……後世の需要を損なうことなく、基本的な需要が満たされ、より質の高い生活を支える製品とサービスを利用すること。すな

わち、その製品とサービスはライフスタイルの全過程において、資源と有毒物質の利用、廃棄物と汚染物質の排出を最小限に抑えるものでなければならぬ（国連持続可能な発展委員会Ⅱ UNCS DⅡ1995年）。山本教授によれば、持続可能な消費は、環境面での持続性に重点が置かれており、エシカル消費の一部である。社会的消費もエシカル消費に含まれる。

生命倫理、環境倫理、社会倫理に基づいた商品・サービスの選択を通じて、環境問題、社会問題の積極的解決に寄与しようとする消費者の購買行動がエシカル消費ではないだろうかと言う。

倫理も時間的に発展するのでエシカル消費も時間とともに変化する。例えば、生命科学の分野では、クローン人間が生まれつつある。生命倫理が問われている。エシカル消費の定義については時代とともに変わり得るということだ。